

中央中だより

令和2年6月5日発行 臨時便
校長 中村 洋一郎
中央中さわやか相談室 3階
相談室 ☎ 2959-9591

3Work (Team・Net・Foot)を大切に中央中の子供たちのために

笑顔と緊張の再開…学校は今

6月1日(月)学校が再開しました！生徒の顔はマスクに隠れて下半分は見えませんが、明らかに笑顔の生徒が多かったように思います。それ以上に先生方の顔がにこやかで、「この日を待ちわびたぞ～」という想いがひしひしと伝わってきました。やはり学校の主役は生徒ですね。主役が学校に戻ってきてくれて本当に嬉しく思います。6月を迎え蒸し暑い日もある中、生徒も先生も全員がマスク姿なのが少し異様な光景ですが、このまま平常日課で過ごせる日々が来てくれることを願っております。

6月2日、右のような埼玉新聞の記事を読みました。本校でも、生徒の登校時に各学年、昇降口前で健康観察カードのチェックと非接触型体温計による検温を同時に行っています。非接触型体温計が36.8℃以上の場合は検温テントで少し休ませてから脇の下で再検温をしています。非接触型体温計は低く温度表示することがあるからです。そこで37℃以上の熱がある場合は、今度は保健室で少し休ませてから再検温します。それでも、37℃以上ある場合は家庭に連絡して早退をお願いしています。ここが教師にとって一番辛いところですよ。折角、登校してきてくれたのに、早退させなければならぬ…生徒の顔を見ると決断が鈍ります。養護教諭は毎日、葛藤しています…。相談を受けると、私ももう一度測ってみようかと複数回測定するも結果は同じ。今は心を鬼にして、学校だより3号に記した登校可否要件を守るようにしています。また、保護者から『熱を測ると、36.9℃だったり、37.1℃だったりします。今日は大事をとってお休みします』という電話をいただくことも多々あります。ご家庭でも葛藤してくれているんだな、

『学校集団感染で体調管理徹底を』

北九州市立守恒小学校で児童5人が新型コロナウイルスに感染し、クラスター(感染者集団)が発生した疑いがあり、同市教育委員会は1日、市立の全学校に対し、児童や生徒に熱がある場合は学校を休ませるなど体調管理の徹底を保護者に求めるよう通知した。(略)同小で最初に感染が確認された女兒は、登校前に37℃台の熱があったが、学校での検温で36℃台だったため授業を受けていた。母親にも発熱症状があった。(略)



↑【非接触型体温計におけるチェック】

ありがたいなと思います。学校内での感染拡大を防ぐためには、何よりも外からウイルスを持ち込まないことが重要であり、そのためには各家庭の協力が不可欠です。今後ともご協力をお願いいたします。

※1 健康カード忘れ、捺印(サインでも可)忘れ、検温忘れの場合は、その日のうちに家庭に電話連絡するようにしています。毎朝の事で大変ですが、よろしく願いいたします。

※2 登校可否要件に関してお電話いただく場合があります。多い質問事項に関してお知らせします。

『直近3日以内に38.0℃以上の発熱があった場合は登校不可』の解釈に関して、

●(発熱⇒解熱) ○(出停) ○(出停) ○(出停) □(登校可) となります。

0日目 1日目 2日目 3日目 4日目

37℃台前半の発熱の場合は、翌日熱が下がり、自覚症状がなければ登校可とします。

判断に迷う場合は、校長・中村までお電話ください。(発熱の定義は37.5℃以上だそうです。)

※3 同居のご家族にも発熱(37℃以上)等の風邪症状がある場合は登校を控えてください。

※4 裏面の埼玉新聞の記事(6月4日)の内容にも注意していきたいと考えます。

「学校つらい」に理解を

新型コロナウイルス感染症にいたり、宿題に追われた症に伴う一斉休校が終わり、きちんと休めていないと、各地で学校が再開され、子どももいる」と指摘された。元々、長期休み明けは、急な生活の変化に子どもが不安になりやすい時期。今回は感染の懸念や、休校による学習の遅れを取り戻そうと意気込む大人からのプレッシャーも加わり、さらにストレスを抱える可能性もある。専門家は「学校がつらいと思う子どもの心に寄り添って」と呼び掛ける。

「夏休みの倍以上ある『超』長期休暇明け。休校中はコロナの感染に恐怖を

子どもからのSOSサイン

- 不眠や寝坊 ■食欲がない
- 登校しようとして玄関で動けなくなる
- イライラするなど情緒不安定

※全国不登校新聞社への取材による

休校明け子ども不調

して玄関で動けなくなるといった様子を見せた場合には「子どもからのSOSの兆候として注意が必要。保護者は学習が遅れると焦るかもしれないが、まずは休ませてもらいたい」と求める。

石井さんがさらに気をもむのは、せきをしている子どもをいじめたり、「ソーシャルディスタンス」と称して仲間はずれにしたりするなどの「コロナいじめ」だ。平時とは異なる状況で子どもにストレスがかかる中、コロナを理由にいじめが行われる状況がある」と話す。

委員会などに通知を出し、学級担任や養護教諭のほか、スクールカウンセラーらが連携し、子どもをケアするよう求めた。また、マスキングを着用していなかったり、せきや登校時に発熱があったりする子どもへの偏見や差別が生じないよう注意を促している。

▽目配り
国立成育医療研究センター（東京）は4～5月、7～17歳の子どもを対象にインターネット上で調査を実施。中間まとめによると、研究員は「教員や保護者ら身近な大人が子ども一人一人とじっくり向き合ってほしい。本人から訴えがなくても、何か不安を抱えているか目配りすることが必要だ」と話している。

小児科医で同センター社会医学研究部の半谷まゆみ研究員は「教員や保護者ら身近な大人が子ども一人一人とじっくり向き合ってほしい。本人から訴えがなくても、何か不安を抱えているか目配りすることが必要だ」と話している。